

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当時より引き継がれ、職員会議にて検討・見直しなど行い、家庭生活を重視した理念となっている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームの朝礼時にリーダーにより理念を読み上げ、会議時に理念に沿って職員で話し合っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面会時・見学時に掲示板に、理念を表示してあり、説明を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣を散歩しながら行き合う人と話をするよう努めている。散歩や買い物も近隣を利用している。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町民イベント(文化祭・商工祭)、他施設行事などに、見学もしくは参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	各地区公民館に出向き、老人会を対象に予防体操を指導。事業所内で、セミナー実施している。地域の方々にイベントの連絡やチラシを入れ参加していただき意見交換などに取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員に閲覧し職員で話し合い、介護計画の見直しをしている。自己評価は職員の意見を聴取しまとめる。評価後、改善すべき項目はすぐに改善を行なうよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、推進委員会を予定、イベントなどに見学・参加していただき、毎月の行事報告後に意見交換・助言などをいただいている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村には提出書類は郵送ではなく直接持参して、担当者と行き来する機会を持ち、質問・相談・報告を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を現在も活用し連絡を密にし利用者様の支援等を行なっている。地域福祉権利擁護担当者と話したい希望がある場合連絡体制をとり、対応している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルにそって勉強会を開き、介護の中で注意を払い防止に努めている。又、利用者様に対しての言葉かけ援助の内容についても、職員間で虐待について話し合い意識付けを行ない、見逃す事のないよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際、十分な説明を行い、質問等に納得いくまで説明を行っている。重要な箇所は数回の説明を行っている。又、家族・利用者様の不安な部分は十分時間をかけ相談にあたり解消できるよう話し合いを行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>グループホーム入口に提案箱の設置を行っている。相談窓口・担当者名・外部の相談窓口の電話番号を掲示している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月写真入の「そよ風新聞」で、生活状況・行事報告を記載。毎月請求書発送時に金銭(小口現金出納台帳)表を添付し報告を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見は面会時に聞いたり「提案箱」を設置している。重要事項説明書には、ホーム内相談窓口、担当者名、外部の相談窓口を記載し説明を行っている。入口に相談苦情窓口を設置しホーム担当者、外部の相談機関、行政の名称、電話番号を掲示している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一度、職員会議を実施し、意見交換を行い反映に努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な対応を行うために、交代制の勤務を実施している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は慎重に行い、利用者が受ける環境の変化によるダメージを防ぐよう努めている。カンファレンスは2ユニット一緒に行い申し送り・反省点等を話し合い職員同士のコミュニケーションを密にしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月一度、職員会議・勉強会等を予定し、アンケートにより勉強議題が決められ実施している。外部研修受講後は、報告書を作成し共有している。法人内でも、セクション会に参加し、情報交換、各自のスキルアップを図れるよう、参加の機会を作っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域施設のケアマネ会の研修に参加し、職員全員に周知している。郡内の施設を見学し情報交換を行っている。母体の群馬ブロック 3拠点のグループホームが集まり、情報交換を行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>3ヶ月に一度、職員の交流会を開催。ソフトバレー・ボーリング・バーベキュー大会などを行っている。個別に面接の機会をもうけ、悩み等、把握できるよう努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>外部・内部などの勉強会、講習会に参加できるよう配慮し、資料の配布を行っている。努力・実績については、個人別に評価を行ない、昇格・昇給に反映している。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>お茶の時間などに、コミュニケーションを取り、不安なこと、困っている事を良く聞き受け止める努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>出来るだけ面会に来ていただき、困っていること、不安なことを、聞く機会を作り電話でも相談に応じ、安心していただけるよう努めている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞いた上で、本人・家族にとってより良いサービス利用が受けられるよう迅速な対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に施設内を見学していただき、一日の生活の様子を説明し、入居される判断となるよう心掛けている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中の会話を重視し、昼食作りなどで共同作業を行い、料理の先生になっていただき、共に共感できるよう心掛けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会を、機会あるごとに電話等で連絡をいれ、お願いしている。行事などを通し、共に楽しみ 又、問題等共有し、本人の為に相談をしながら支え合える関係を築けるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様の生活歴を知り、家族関係も理解した上で、間に入り、入所後もコミュニケーションが図れるよう、良い関係を築き継続できるよう支援している。利用者様の生活の様子を写真付きで手紙にして、毎月送付している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の面会を歓迎している。地域のイベントに参加し、文化祭などに出展し、見学に出掛ける。住み慣れた場所(畑・家)に行ける機会をできる限りつくって、対応している。よく行ったスーパーなどに行き、買い物ができるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	生活の場であるデイルームでの会話が穏やかに交わされる時には職員が間に入り、関わり合いがスムーズにできるよう支援している。席順・入浴順番を重視し声かけを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	「そよ風新聞」を発行。地域にポスティングの実施を通じて、いつでも相談していただけるように努めている。一度退居したが、お付き合いが続き再度入居した方がいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で会話、コミュニケーション、思いや、暮らし方の希望についてを把握し、できる限り思いを遂げられるよう支援し、ケアの創意工夫と共に、ケアプランに反映されている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接(本人・家族)からの情報を機に生活歴等を把握し、これまでの状況の経過の内容を書類に記入、職員に周知徹底を図っている 現状況・情報は随時共有できるよう、夕礼会議にて報告している		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしでの現状を基に作成したアセスメント、介護計画、モニタリングを用いて現状を総合的に把握。ケアプランに沿って支援。その人らしい生活ができるよう努め、家族には書類にて確認していただいている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・医師の意見を把握し、問題を的確に捉え、カンファレンス会議等にて意見を出し合った内容に沿った介護計画書を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行ない、介護計画の見直しを図り、問題があれば、随時カンファレンスを行い、心身的状況に応じた変化時における介護計画の見直し作成を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活・行動・発言など、できるだけ詳しく記入するよう努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	町外の専門医受診される際には、提携の実費サービスであるハートフルサービスを紹介し利用していただいている。買い物希望時は送迎を実施している。月一回デイサービス・ショートステイと合同の行事を行い交流を図っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方を運営推進委員として依頼し、消防署においては避難訓練等で指導していただいている。ボランティアの受け入れを積極的に行なっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族に相談の上、コールボタンに代わりインターホン購入。福祉用具の事業者と連絡をとり本人に合った車椅子のレンタル オムツの低価格購入等の支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域支援グループ・地域福祉権利擁護事業所専門員の訪問あり、相談・情報交換を通じて交流を図っている。運営推進委員会に地域包括支援センターの担当者も参加。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の意向で主治医を決めている。専門医受診の際には、家族に体調の変化及び経過を報告し、適切な医療が受けられるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンに沿った時間帯でのトイレ誘導をし失禁回数が少なくなる支援を行っている。オムツは、できる限り使用しないよう心掛けている。トイレ誘導・介助は、周囲に配慮しながら行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体の状態を把握し、毎日声かけを行い、本人の希望に応じて入浴していただいている。又、温泉と真湯のお風呂にご希望に応じ利用していただいている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間に決りはなく、利用者様に依って入眠を促し、就寝介助・更衣等の見守りや支援をしている。温度・湿度等の環境にも注意を払っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、裁縫、畑仕事等、得意分野を活かし利用者様に負担にならないよう、一緒に行なっている。月に何度かのイベントに参加を支援、呼びかけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、利用者様の状況を把握し、ご家族と相談の上、小口現金として保管し、必要時に支払いしている。定期的買い物に出かけ、又1階の自動販売機でジュースを買うなど、お金を使えるよう配慮している。ご家族には出納報告も行なっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域柄、冬場は足元が悪い為、出掛けられないが、暖かい日には外気浴・散歩に出掛け、買い物をしてくる。敷地内の畑や花壇への作物の植え付け・収穫などを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	町主催のイベント(コンサート・文化祭)など、利用者様の希望を伺い参加できるよう支援している。家族に声かけをし、面会時間に合わせ外出・外食などを行えるような機会をつくっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、コードレス受話器を使用し、事務所、ダイルーム、自室にて、プライバシーを守り、自由に話ができるよう対応している。手紙においても、職員が手伝い、送れるよう支援している。権利擁護事業専門員を通じて渡される方もおられる		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に決りはなく、いつでも可能。ご家族・友人の面会は自由となっている。面会者には椅子を用意し、お部屋で、お茶を楽しんでいただくなどしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロのマニュアルを職員がいつも閲覧できるようにし、自社のマニュアルも作成して、職員に周知している。禁止となる行為を理解し、身体拘束は行ってはいない。身体拘束を正しく理解できるよう、会議などを開き徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様の外出、入浴時、居室に関しては、希望により対応しているが、拘束に当たる施錠については弊害を十分理解し、決して行わないように指導し徹底している。夜間においては利用者様が自ら施錠される方もいらっしゃる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に向う際にはノックをしてからの入室を徹底し、夜間には巡視を行い、安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品(ハサミ・カッター)などケースに仕分けして保管している。カミソリなども、使用には十分気をつけるよう見守り・声かけを行なっている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会を開催し、知識を学び、事故防止に努めている。一人ひとりの状態に応じ、予測できる事故について話し合い、未然に防ぐ工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルに基づき事故が発生した場合の対応等、勉強会を開催し、対応している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いで指導をお願いし、災害時に備えている。近所の方々に依頼し、協力体制は出来ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日常の生活状態を把握し、報告させていただき、対応を話し合い考えている。インターホン、ポータブルトイレなどの購入を必要に応じて行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常のバイタルチェックを一覧表にし、個人グラフを作成し、一目で変化が分かるようにしている。特変時には状況に応じ病院受診、主治医、管理者の指示を仰ぐ。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに服薬情報をファイルし、活用できるように作成。使用目的や副作用などを把握し、服薬の仕分け、服薬がだたくことができるよう支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を作成してチェックを行ない確認し、医師の指示のもと、排便コントロールがつかない方のみ、下剤を服用している。又、水分補給は十分に、乳製品・繊維質の摂取を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行ない、夕食後には、義歯を個人ケースに入れ、洗浄剤につけ、起床時まで殺菌、洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託の管理栄養士が利用者様一人ひとりの摂取カロリーを計算し、食事・水分摂取量は一覧表にて記入し、介護記録に残すことで、一日を通して把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防には取り決めがあり、インフルエンザ予防接種は、同意のもと必ず実施している。外出後の手洗い・うがいなどは習慣となっている。又、マニュアルにそった、トイレ掃除、吐物、便の処理は、陽イオン系の薬剤を使用。殺菌に努めている。吐物の処理法、環境整備は実習形式で学んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いは念入りに行う事は勿論のこと、職員の検便、衛生管理を周知徹底し、ふきんや食器類の消毒を行っている。冷蔵庫は、掃除チェック表を作成、担当者が行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入り口である玄関は、ショートステイと共同な為、表札はあまり目立たない点がある。利用者様が使用しやすいように長椅子を設置している。玄関まわりの環境を整える為、植物などを置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイルームが食堂と兼ねているが、利用者様同士、テレビを観たり、談話をされるスペースとして、ソファを置き、ゆっくり花や季節感のある演出ができる飾りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイルームにソファを置いて有り、エレベーター前には長椅子を置き、本を読んだり、思い思いに過ごせる空間を提供している。ユニット間も自由に生行き来できる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたもの、好みのものを、自由に持ち込んで頂き、居心地が良く安心できるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に空気の入換えを行い、掃除時には歓喜に努めている。気になる臭いについては、除菌剤にて掃除をし、その上、更に気になる時には、消臭剤を使用している。床暖房により、利用者様に合わせた温度調節を行い、加湿器を使い、湿度を調整している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーであり、廊下、トイレ、浴室には手すりを設置し、安全に生活が送れるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室を間違えることのないよう、個別に手作り表札と、一人ひとりが分かる(リボンなど)工夫をし、トイレの入口にも大きな文字で表示している。又、背丈に合わせ、目線に合った位置に表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に畑を作り、種まき、植え付け、収穫を楽しみ、プランターには花を植えて、水遣り日課として、個々に活動している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様と職員間に信頼関係が築けるよう、喜び悲しみ、感情のまま全てを共感している。又、真の家族に接するような気持を持ち、支援にあたるよう、定期的に関われるカンファレンス等では、職員全員が優しさ思いやりなどを常に再確認している。利用者様自身が、「何か出来る」「人の役に立てる」必要とされている事を実感して頂く為、自然に決まっていた役割り分担（草の水やり、ゴミ出し）等を継続できるように声かけを行ない、その都度、感謝の意を伝えている。この事で、生きがいが生まれ、モチベーションにつながったりと結果が出ているように思われる。豊富な温泉に恵まれているので、日曜日以外は、毎日入浴ができるようにしている。